平成元(1989)年度

催物展　橋本興家版画展

3月11日～4月16日

本県出身の木版画家である橋本興家氏から寄贈された版画作品を中心に、日本の城シリーズや鳥取砂丘シリーズ、花シリーズなど橋本氏の代表作95点を展示し、その画業を紹介した。会場は第１・第３展示室。

催物展　オランダ現代美術展

4月23日～5月7日

オランダ・トットリ現代美術交流展実行委員会ほかとの共催により、オランダで活躍している現代美術家グループ「出島」の画家11人の作品約100点を展示した。会場は第２展示室。

催物展　因・伯と但馬の襖絵

7月8日～7月30日

因幡と伯耆(鳥取県)と但馬(兵庫県北部)の寺院に伝わる襖絵45面を展示し、大画面の美の世界を紹介した。会場は第２展示室で、土方稲嶺や片山楊谷、小畑稲升、八百谷冷泉など優れた障屏画が展示された。

特別展　山陰の海

7月28日～8月27日　入場者総数　7,866人

海の生き物は多種多様であり、多くのものは複雑な環境条件を備えた磯を中心に生活している。日本海の移り変わりとともに、そこで生活するようになった生き物―特に山陰の磯の小動物たちについて、その種類や生活の様子を紹介した。

特別展　現代美術の創造者たち

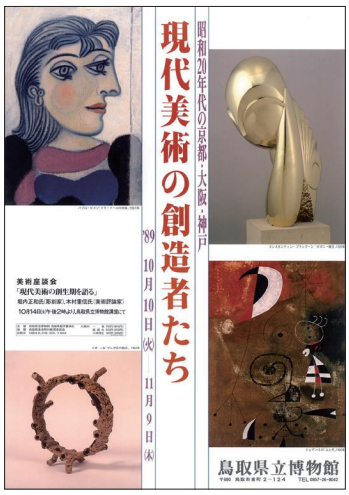
10月10日～11月9日　入場者総数　4,957人

日本の現代美術の原点とも言える昭和20年代の京都や大阪、神戸で芽生えた前衛(革新)的な美術グループの作品と、戦後の日本美術に大きな影響を与えた外国作家の作品を紹介した。会場は第１・第２・第３展示室で145点を展示した。

催物展　空から見た郷土のすがた展

11月16日～12月13日

変容する郷土のすがたを、昭和43年から５年ごとに撮影した空中写真と地上定点写真によって紹介した。



平成２(1990)年度

特別展　濱田台兒展

４月28日～５月20日	入場者総数　4,318人

平成２年に日本芸術院会員となった本県出身の日本画家である濱田台兒氏の代表作を展示し、その画業を紹介した。会場は第１・第２展示室で、50点の本画に加え、下絵についても33点展示した。

特別展　卑弥呼の時代をさぐる

７月27日～８月26日	入場者総数　8,873人

全国各地で行われている発掘調査によって次々と明らかになる弥生時代の文化を紹介した。

催物展　第33回日本伝統工芸中国支部展

９月22日～９月30日	

日本工芸会および日本工芸会中国支部との共催により、同中国支部の第33回展を第３展示室で開催した。日本工芸会中国支部の会員および一般応募者の伝統工芸作品(陶芸、染織、木工芸、漆芸等)95点を展示した。

特別展　石橋美術館名品展 ― 青木繁と近代洋画の巨匠たち ―

10月５日～11月４日	入場者総数　8,121人

石橋美術館所蔵の日本近代洋画の名品の中から、青木繁と坂本繁二郎を中心に日本近代洋画を彩った巨匠たちの作品を紹介した。会場は第１・第２・第３展示室で、青木と坂本の他、岡田三郎助、藤島武二らの作品110点を展示した。

催物展　川と池の自然のくらし

11月23日～12月16日	

「ふるさとの川と池」「川や池の生きものたち」「川や池のくらし」「川と池への願い」の４つのテーマにより、川や池の自然と人々のくらしについて展示・紹介した。

平成３（1991）年度

特別展　マンモスと人類の時代

7月26日～8月25日	入場者総数　18,321人

今から200万年ごろから、地球は極端に寒くなったり、暖かくなったりするようになった。こうした自然界の大きな環境変化による生きものたちの移り変わりと人類進化について展示・紹介した。

特別展　江戸画壇の巨匠・谷文晁とその周辺の画家たち

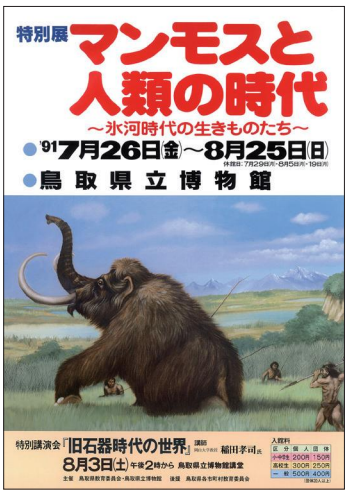
10月５日～11月４日	入場者総数　4,597人

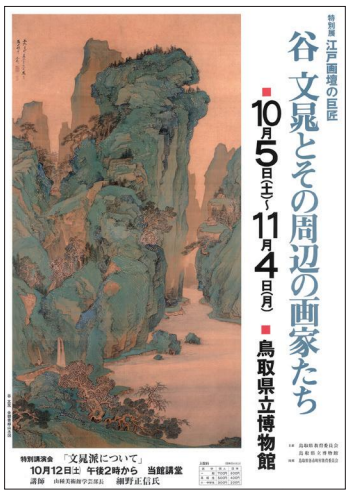
江戸画壇の巨匠・谷文晁とその実弟である島田元旦を中心に、渡辺崋山や亜欧堂田善などその周辺の画家たちの作品を併せて展示し、この時代の画壇の一様相を紹介した。会場は第１・第２・第３展示室で、100点を展示した。

催物展　山地の自然のくらし

12月４日～１月19日	

山地の自然とそこにくらす人々の生活を紹介し、鳥取県の山地の特色やその文化、自然と人間の調和の在り方などについて考える機会とした。





平成４(1992)年度

催物展　身近な鳥・珍しい鳥

５月２日～５月17日

愛鳥週間は、野鳥の保護活動を促進することを目的に、毎年５月上旬に設けられている。これにちなんで、当館が所蔵する鳥類の剥製を中心に、身近な鳥や珍しい鳥の姿や生態について展示した。

催物展　池田光仲展

７月１日～７月12日

鳥取藩の基礎を築いた池田光仲の遺品や関係資料を展示し、その人物像と彼の生きた江戸時代前期の鳥取の姿について紹介した。

催物展　第35回日本伝統工芸中国支部展

７月２日～７月８日

日本工芸会および日本工芸会中国支部との共催により、同中国支部の第35回展を第１展示室で開催した。日本工芸会中国支部の会員および一般応募者の伝統工芸作品（陶芸、染織、木工芸、漆芸等）105点を展示した。

特別展　まつり・獅子と龍

７月24日～８月23日　入場者総数　4,033人

日本やアジアとその周辺の地域で「まつり」に登場する獅子や龍を展示・紹介するとともに、麒麟獅子や龍が登場する鳥取県の「まつり」の現代的意義を考える機会とした。

特別展　近代の日本画・京都の画家たち

10月９日～11月８日　入場者総数　5,013人

近代の日本画の歩みの中で、長い歴史と伝統のうえに、さらに新しい世界を創造した京都の日本画家たちをとりあげ、近代日本画の創造の歩みを紹介した。会場は第１・第２・第３展示室で、関西の国公立美術館所蔵作品を中心に51点を展示した。

催物展　海岸地域の自然とくらし

11月19日～12月13日

鳥取県の海岸地域は鳥取砂丘や浦富海岸など、変化に富んだ自然環境を持つ。この展示では、多様な海岸環境が形成された仕組みと、そこに育まれた生物の様子、さらにそこに生活する人々の営みについて展示した。

催物展　安富コレクション展Ⅰ ― 江戸時代の絵画 ―

２月13日～３月７日

故安富寛兵衛氏から寄贈された数多くの近世絵画や考古資料などの中から、鳥取藩絵師の作品を中心とする江戸時代の絵画を紹介した。会場は第３展示室で、土方稲嶺、片山楊谷、島田元旦、沖一峨らの作品39件を展示した。

平成５（1993）年度

催物展　夭折の画家・前田寛治と異色の彫刻家・辻晋堂

４月25日～５月30日	

鳥取県を代表する作家である前田寛治と辻晋堂について、その業績を紹介した。会場は第１・第２展示室で、前田寛治は館蔵品と個人所蔵作品から油彩と素描を約90点展示、辻晋堂は館蔵品を中心に木彫や陶彫など彫刻35点と素描約10点を展示した。

特別展　大海獣 ― クジラ・アシカ・ラッコたち ―

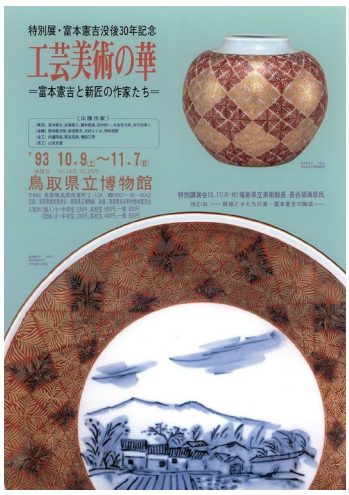
７月30日～８月29日	入場者総数　10,716人

クジラ・アシカ・ラッコなどの海獣のなかまは、陸上生活する哺乳類のなかまから水中生活にもどった動物たちである。このような海の動物たちの体のつくりや生活の様子を展示・解説し、彼らと人類との関わりを考える機会とした。

特別展　工芸美術の華 ― 富本憲吉と新匠の作家たち ―

10月９日～11月７日	入場者総数　2,934人

近代日本工芸界に大きな足跡を残した富本憲吉の没後30年を記念し、富本とその周辺の作家たちが示した戦後の新しい工芸の世界を紹介した。会場は第１・第２・第３展示室で、富本や近藤悠三、鈴田照次、志村ふくみらの作品190点を展示した。



催物展　画家 伊谷賢蔵と尾﨑悌之助

12月16日～１月23日	

鳥取県出身で、行動美術協会で活躍した伊谷賢蔵と尾﨑悌之助について、その業績を紹介した。会場は第１展示室で、伊谷賢蔵は戦前から戦後の油彩画17点、尾﨑悌之助は戦後の作品を中心に油彩画15点を展示した。

催物展　安富コレクション展Ⅱ ― 考古資料・工芸資料の美 ―

２月15日～３月13日	

故安富寛兵衛氏から寄贈された数多くの近世絵画や考古資料などの中から、考古資料と工芸資料を中心に紹介した。会場は第１展示室で、各地出土の勾玉や石槍類、鏡やかんざし類、池田家関係資料や因久山焼などの陶磁器類を多数展示した。

平成６（1994）年度

特別展　水木しげると日本の妖怪展

４月23日～５月22日	入場者総数　12,615人

鳥取県出身の漫画家・水木しげるが創り上げた妖怪たちの世界を原画や模型、ジオラマなどを使って紹介するとともに、江戸時代以降の日本美術に見られる妖怪たちを描いた作品を展示した。会場は第１・第２・第３展示室。

催物展　空から見た郷土のすがた

６月14日～７月３日	

県立博物館と各市町村の共同事業として５年ごとに行っている「郷土視覚定点資料収集事業」によって収集された空中写真および平地写真を展示し、変化しつつある郷土のすがたを紹介した。

催物展　鳥たちの世界

７月22日～８月21日	

渡りをする鳥や人里にすむ鳥など、当館が所蔵するさまざまな鳥類標本を展示するとともに、保護活動の取り組みについても紹介した。映像や音声などによる参加体験型展示を行うことで、鳥類への理解を深められるよう工夫した。

催物展　山本兼文遺作展 ― 描き・彫り・刻み続けた半世紀 ―

８月２日～８月15日	

鳥取県出身の彫刻家・山本兼文が遺した、戦後の木彫から晩年の石やセメント、ブロンズなどのさまざまな彫刻作品を展示し、その独特な造形世界を紹介した。会場は第２・第３展示室で、具象的な作品と抽象的な作品45点を展示した。

特別展　明治維新と鳥取

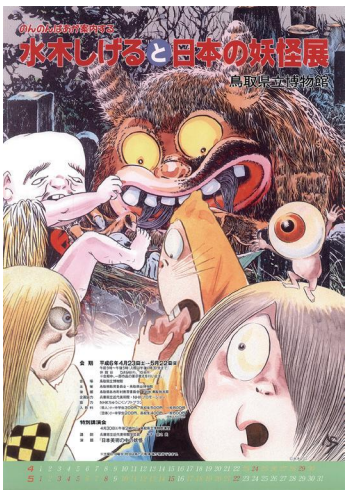
10月７日～11月６日	入場者総数　6,374人

ペリー来航に始まる幕末の変動、そして明治維新の中で、鳥取藩は大きな役割を果たした。全国及び鳥取藩の主要な事件を資料によってたどり、その中で活躍した藩主・志士たちの人物像を遺品などで紹介した。

催物展　安富コレクション展Ⅲ ― 書と人物 ―

２月14日～３月12日	

故安富寛兵衛氏から寄贈された数多くの資料の中から、書蹟を中心に紹介した。会場は第１展示室で、伝伏見天皇和歌六首、徳川斉昭や池田光仲の書など75点を展示した。



平成７（1995）年度

催物展　信仰の造形 ～郷土に伝わる仏画展～

４月22日～５月21日

鳥取県内の寺院に伝わる仏画の中から、代表的なものや特徴的なものを展示し、仏教美術の造形に親しみながら鑑賞する機会とした。会場は第３展示室で、涅槃図や阿弥陀如来図、釈迦十六善神図など25点を展示した。

催物展　因伯の古地図

４月28日～５月21日

江戸時代に描かれた因幡・伯耆の国絵図を展示するとともに、古い日本地図の中の鳥取県域を写真で展示し、郷土の変遷を紹介した。

催物展　戦後50年・戦争と美術

７月20日～８月20日

戦後50年にあたり、戦争体験や復興の状況、平和を願う気持ちなどの描かれた作品を展示し、徐々に風化しようとしている戦争について改めて考える機会とした。会場は第３展示室で、伊谷賢蔵や川上貞夫、恩田孝徳らの作品46点を展示した。

特別展　生命40億年のあゆみ

７月28日～８月27日　入場者総数　11,802人

約40億年前に誕生したといわれる生命は、幾多の絶滅危機に直面しながらもたくましく進化してきた。この展覧会では、生命誕生から現在までの軌跡を化石資料とともに展示・解説し、進化の不思議や地球環境の変遷について紹介した。

特別展　生誕100年記念 情熱の画家・フォーヴの旗手 里見勝蔵展

10月６日～11月５日　入場者総数　1,660人

1930年協会の創立会員として前田寛治とも関係の深い里見勝蔵の生誕100年を記念して、その回顧展を開催した。会場は第１・第２・第３展示室で、初期から晩年に至る油彩画と素描など123点を展示し、併せて鳥取の洋画家の作品も展示した。

催物展　安富コレクション総合展

２月10日～３月10日

平成４年度から催物展として紹介してきた安富コレクションの中から、代表的な資料やこれまで紹介できなかった資料を展示し、コレクションの全体像を示した。会場は第１展示室。

平成８（1996）年度

特別展　大国主と大黒天

４月26日～５月26日	入場者総数　3,546人

本来寺院の食堂などに祀られた大黒天が、神話の主人公・大国主神と同じものと考えられるようになり、福の神として庶民の信仰を集めるようになった様子を日本各地の大黒天や関連資料によってたどった。

特別展　中四国９県交流展 近代洋画・中四国の画家たち展

６月８日～６月30日	入場者総数　2,115人

中四国９県の美術館・博物館が所蔵する、明治期から昭和初期にかけて活躍した各県の代表的な洋画家の作品81点を展示し、近代日本洋画の足跡の一端を紹介した。会場は第１・第２展示室で、小林萬吾、前田寛治、猪熊弦一郎らの作品が並んだ。

特別展　大唐王朝の華

７月14日～８月18日	入場者総数　4,465人

シルクロードの貿易都市として国際色豊かな文化を生み出した大唐王朝の都・長安。則天武后・永泰公主・楊貴妃資料や立女俑・騎馬俑・金銀盃・宝石類など、日本初公開資料を含む約230点の貴重な文物を展示紹介した。

催物展　山陰海岸のカニ ― カニと一緒に記念写真 ―

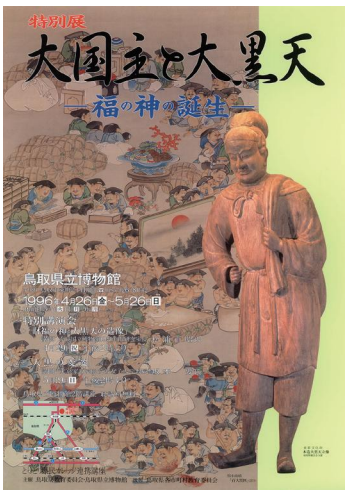
７月19日～８月25日	

冬の味覚ズワイガニに代表されるように、カニは鳥取県民にとってなじみ深い生物である。この展覧会では、新しく制定された「海の日」にあわせ、当館所蔵のさまざまな甲殻類標本をとおして、海の自然環境に対する理解を深める機会とした。

特別展　生誕100年記念　前田寛治

９月29日～11月４日	入場者総数　4,068人

パリ留学から帰国後、独自の写実を追求しながら昭和初期の画壇で活躍し、33歳で夭折した前田寛治の生誕100年を記念し、その代表作123点と素描48点を紹介した。会場は第１・第２・第３展示室で、里見勝蔵や佐伯祐三ら前田の周辺作家の作品も展示した。



平成９（1997）年度

催物展　鳥取東照宮の宝物

３月27日～４月20日

鳥取東照宮は慶安３年（1650）に鳥取藩主・池田光仲が勧請して建てたものである。この東照宮と別当寺である大雲院に伝わる宝物を展示紹介し、江戸時代の歴史・文化を振り返る機会とした。

特別展　救おう！日本の野生生物 ― 鳥取県の貴重な生物 ―

７月24日～８月24日　入場者総数　4,835人

日本は多様な自然環境に恵まれ、そこに生息する生物も多様である。しかし近年、日本の野生生物の多くが絶滅の危機にある。この展覧会では、日本や鳥取県の絶滅のおそれのある野生生物について紹介し、自然環境の保全を考える契機とした。

特別展　― 鳥取画壇の源流をさぐる ― 紫石・応挙と土方稲嶺展

９月28日～10月26日　入場者総数　4,250人

土方稲嶺の初期から晩年までの作品を紹介して、その画業の全貌を概観すると同時に、師匠である宋紫石や、京都で影響を受けたとされる円山応挙など、同時代を代表する絵師たちの作品58件を展示した。会場は第１・第２・第３展示室。

特別展　開館25周年記念 栄光の近世ヨーロッパ絵画展 ― 古典主義からバルビゾン派まで ―

11月９日～12月７日　入場者総数　6,111人

16～19世紀前半までのオランダ、フランス古典主義、ロココ、新古典主義といったヨーロッパの近世絵画作品と、それらと近代絵画との架け橋となったバルビゾン派の絵画作品67点を第１・第２展示室に展示、ヨーロッパ絵画の流れを紹介した。

催物展　絵図と郷土でみる鳥取城

２月13日～３月15日

当館が所蔵する鳥取城絵図を展示するとともに、発掘調査で出土した資料を交えて、鳥取城の全体像を紹介した。あわせて「徳川慶喜・池田慶徳肖像画」を特設コーナーに借用展示した。

平成10(1998)年度

催物展　岡村吉右衛門コレクション展 ― アジアの染織 ―

4月18日～5月17日

染色作家であると同時に世界の染織文化の研究者でもある鳥取県出身の岡村吉右衛門が収集した世界の染織品の中から、タイやインドネシアなどのアジア地域の染織品を紹介した。会場は第１展示室で、絣や絞り染め、臈纈染など74点を展示した。

特別展　天狗と山伏 ― 修験道の世界 ―

10月３日～11月３日　入場者総数　4,226人

山の絶対的な霊力を認めて授かろうとした山伏と、山の持つ霊力の象徴である天狗を中心に、日本独特の修験道の世界を振り返り、わたしたちと山の関わりを見つめ直そうとした。

催物展　ロストワールド 太古の生きもの

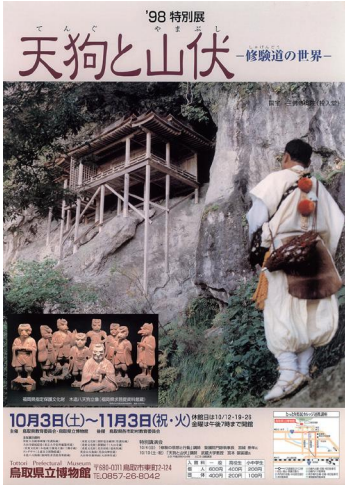
7月２日～８月１日

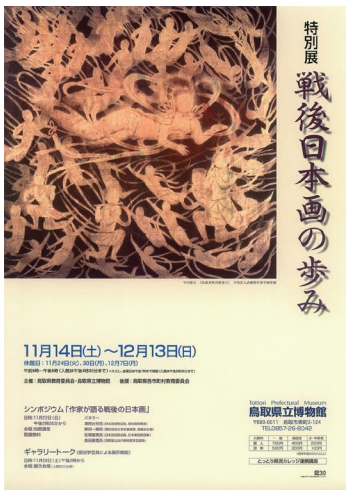
本展覧会は、地球上に現れた代表的な生物を化石標本とともに紹介し、生物の多様さや進化の不思議について紹介した。また鳥取層群の化石調査で得られた情報をもとに、今から約1500万年前の郷土の様子も解説した。

特別展　戦後日本画の歩み

11月14日～12月13日　入場者総数　3,483人

日本画滅亡論も論じられたように低迷していた戦後の日本画壇の復興や、新しい日本画の創造に尽力した画家、そしてその後円熟期を迎えた現代日本を代表する画家たちの作品48点を紹介した。会場は第１・第２・第３展示室。





平成11(1999)年度

催物展　空から見た郷土のすがた

4月16日～5月16日

県立博物館と各市町村教育委員会が5年ごとに実施している「郷土視覚定点資料収集事業」によって撮影された、昭和43年から平成10年までの航空写真・地上写真を展示し、変化しつつある郷土のすがたを、広く県民に紹介する機会とした。

特別展　かむ・さす・かぶれる ― 自然を楽しむために ―

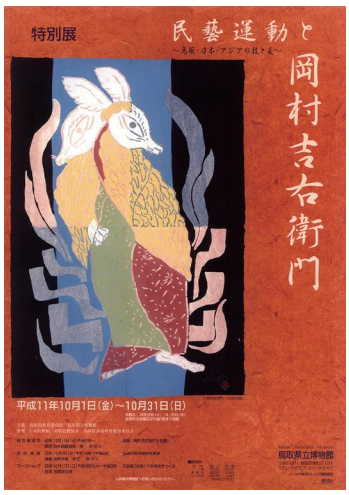
7月23日～8月22日　入場者総数　13,129人

自然は豊かである反面、「豊かな危険」も秘めている。この展覧会では、かむ・さす・かぶれるなど生物によるさまざまな危険について紹介した。また安全対策や対処法についても解説し、楽しく自然と触れあうための一助となる展示を行った。

特別展　民藝運動と岡村吉右衛門 ― 鳥取・日本・アジアの技と美 ―

10月1日～10月31日　入場者総数　2,194人

岡村吉右衛門の型染め版画作品や、国内外で収集した布類を展示するとともに、民藝運動の創始者である柳宗悦や、河井寛次郎、芹沢銈介、棟方志功らの作品を通して、岡村と民藝運動との関わりを紹介した。会場は第1・第2・第3展示室。



催物展　鳥取県民の明治・大正・昭和

11月12日～12月23日

明治時代以降の近代化の中で、日本の誠治・経済・文化はもとより、人々の意識は大きく変化した。県民から寄贈を受けた資料を中心に展示し、明治・大正・昭和の各時代の鳥取県を紹介した。

催物展　河北省の文物と人々の暮らし

3月10日～4月16日

平成10年6月に友好交流館としての協定書を締結した中国河北省との交流を通して調査・収集した文物・関連資料を展示し、鳥取県が友好提携を結んでいる河北省の歴史や文化を紹介した。

平成12(2000)年度

催物展　ふしぎ大陸　南極展

4月21日～5月21日	

雪と氷で覆われた大陸「南極」。この展覧会では、南極の不思議な自然や観測調査の成果を紹介し、その特色や調査活動の重要性を詳しく解説した。また環境問題や自然科学における研究への関心を高めることも目的として開催した。

催物展　城下町鳥取の絵図

9月9日～10月26日	

池田長吉の入府400年にあたる本年に、鳥取市歴史博物館と連携企画として開催した。鳥取池田家藩政資料の大型の鳥取城構い絵図を中心に、町の変遷や住民について紹介し、城下町鳥取について理解を深める機会とした。

特別展　むきばんだ　弥生の王国

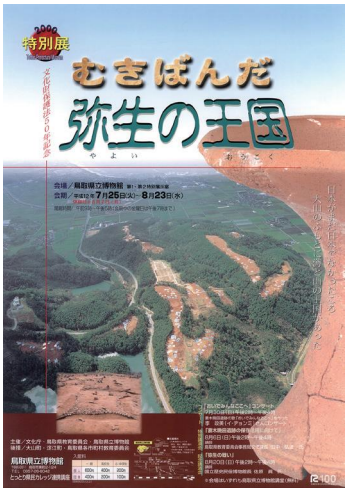
7月25日～8月23日	入場者総数　6,181人

弥生時代最大級の遺跡である妻木晩田遺跡をはじめとする優れた山陰の弥生時代後期の文化を紹介するとともに、戦いと交流を視点として弥生時代の歴史と地域間の関係を探った。

特別展　現代中国の美術 ―中国第9回全国美術展受賞優秀作品による―

11月3日～12月3日	入場者総数　3,100人

平成11年に中国で開催された第9回全国美術展の受賞作品の中から、現代中国の美術の動向を示す中国画、油彩画、版画など計81点を、第1・第2展示室を会場に、五つのテーマと一つの特別コーナーに分けて展示した。



平成13(2001)年度

催物展　絵はがきで綴る鳥取

4月27日～5月27日	入場者総数　15,089人

当館が所蔵する、鳥取県に関わる約1,100点の絵はがきによって、鳥取県の景観や世相の変化を振り返り、郷土鳥取について理解を深める機会とした。

特別展　トリピー森の大冒険 ― さがそう小さな妖精たち ―

7月25日～8月22日	入場者総数　5,035人

森は生物の生活の場であり、生物がそれぞれの役割を担うことで「森」という生態系が成り立たっている。この展覧会では、森の生物と生態系における役割を紹介するとともに、疑似体験展示など最新技術を用いて、親しみやすい展示を行った。

特別展　現代美術への招待 ― 日本の前衛・60年代 ―

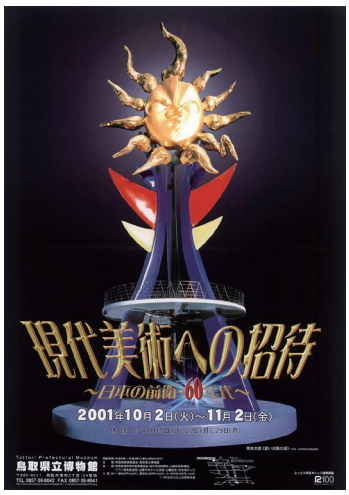
10月2日～11月2日	入場者総数　3,584人

1960年代の日本に登場した、従来の美的価値観や芸術概念を問い直す作家たちによる、多様な素材や技法を用いた表現を、国公立美術館等が所蔵する56点の作品によって紹介した。会場は第1・第2・第3展示室で、五つのテーマで展示を構成した。

催物展　北九州市立美術館所蔵　ピカソ銅版画展 ― ボラールのための連作集から ―

11月16日～12月9日	

ピカソの円熟期とされる1930年代に制作された銅版画集「ボラールのための連作集」は、彫刻家とモデルをモチーフとした男女の性愛をテーマに、銅版画の技法を自在に駆使したピカソ版画の傑作。第2展示室を会場に、100点を展示した。



平成14(2002)年度

催物展　すばる望遠鏡 ― 宇宙を探る新しい眼 ―

4月20日～5月19日	入場者総数　4,270人

日本がハワイ島マウナケア山頂に建設した「すばる望遠鏡」について、その建設過程や機能を紹介するとともに、望遠鏡を作るために用いられた最新技術、これまでに得られた天体画像、今後期待される研究成果について紹介した。

特別展　伊谷賢蔵 生誕百年記念展

4月23日～5月19日	入場者総数　3,618人

鳥取県出身の洋画家・伊谷賢蔵の生誕100年を記念し、館蔵品を中心に、県内外の美術館や個人が所蔵する代表的な作品や資料と併せて、その画業を回顧する展覧会を開催した。会場は第１・第２展示室で、油彩画71点、素描59点を展示した。

特別展　華やぐパリの芸術家たち展 ― 印象派、エコール・ド・パリから現代までの足跡をたどる ―

7月20日～8月25日	入場者総数　7,480人

印象派のモネ、ルノワール、エコール・ド・パリのモディリアニ、藤田嗣治、シュルレアリスムのミロ、そして第二次世界大戦後のアンフォルメルの作家などの作品81点を展示し、その芸術表現の軌跡を紹介した。会場は第１・第２展示室。

特別展　異界万華鏡

9月6日～10月6日	入場者総数　10,891人

国立歴史民俗博物館の巡回展で、日本人が想像してきた異界を〈あの世〉・〈妖怪〉・〈占い〉という面から展示するとともに、人々と異界との交渉の跡をたどりながら、それを必要としてきた心性と、現代社会における異界の持つ意味について考えた。

特別展　鳥取県の名宝

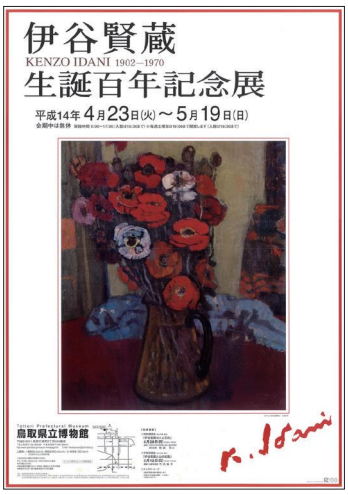
11月2日～12月1日	入場者総数　7,164人

開館30周年記念として、考古資料、絵画、彫刻、工芸品など、さまざまな分野の国宝・重要文化財・県指定保護文化財を一堂に展示し、鳥取県の文化財を総合的に紹介した。また、県外所在の文化財も可能な限り里帰り展示した。

催物展　数学と遊ぼう ― 形と数のワンダーランド ―

12月12日～1月19日	入場者総数　4,754人

「形と数」をテーマとし、体験型装置をとおして、数学の原理をわかりやすく解説した。また「からくり人形」や「からくりおもちゃ」も展示し、難しい印象のある数学について親しみやすさを感じてもらえるようさまざまな工夫を行った。



催物展　高知県立美術館ベストセレクション シャガール版画展 ― 愛の賛歌 ―

3月15日～4月13日	入場者総数　5,409人

高知県立美術館の優れたシャガール版画コレクションから、画家の生涯にわたる重要なモチーフであった愛し合う幸せな恋人たちの姿を描いた作品約100点を展示し、その色彩豊かで甘美な恋人たちの世界を紹介した。会場は第１・第２展示室。

平成15(2003)年度

企画展　因伯の古代寺院

4月26日～5月25日	入場者総数　4,532人

鳥取県内22カ所の古代寺院に関する資料をできるだけ集め、鳥取県の古代寺院の特色、鳥取県の古代仏教文化などについて紹介した。

特別展　発掘された日本列島2003

12月6日～1月18日	入場者総数　3,532人

文化庁主催の埋蔵文化財に対する普及・啓発を目的とした展覧会で、平成14年度に行われた発掘調査成果から話題を集めた出土資料を展示した。あわせて地域展として、県内各時代の代表的な遺跡の資料も紹介した。

特別展　世界どうぶつ物語 ― 動物地理学で語る 鳥取から世界まで ―

7月20日～8月24日	入場者総数　24,087人

ホッキョクグマやオカピなどの標本から生きたヘラクレスオオカブトまで、約700点の世界中の動物を展示し、その進化の物語を動物地理学の視点から展示・解説した。また、鳥取県における動物地理学の注目すべき研究成果も紹介した。

企画展　現代の表現 鳥取vol.1 4 Rooms ― 4つの同時代的感性 ―

12月17日～1月11日	入場者総数　1,173人

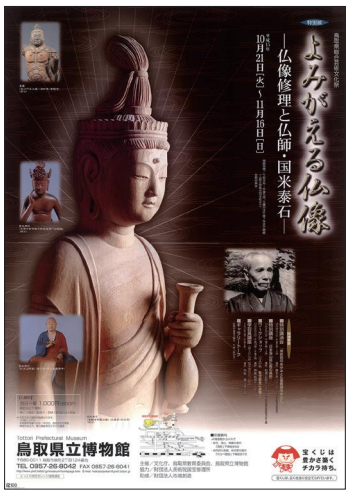
新しいシリーズ企画「現代の表現 鳥取」の初回展として、遠藤礼奈、マスジョ、溝潤子、吉賀あさみの4名の若手現代美術作家を紹介した。会場は第2展示室で、内部を4つに区切り、各作家の現在の思考をたどれる4つの展示空間を構成した。

特別展　よみがえる仏像 仏像修理と仏師・国米泰石

10月21日～11月16日	入場者総数　4,393人

鳥取県出身で、岡倉天心との出会いから日本美術院で仏像修理を担った仏師の国米泰石。その業績を顕彰するため、国米が修理に携わった仏像や関係資料、自ら刻んだ仏像彫刻などを展示した。会場は第1・第2・第3展示室。

企画展　富山県立近代美術館所蔵 ルオー版画展

2月28日～3月28日	入場者総数　3,018人

富山県立近代美術館の優れたルオー版画コレクションから、連作集「ミセレーレ」や「流れる星のサーカス」、「パッション」をはじめとする代表的な版画作品100点を展示した。会場は第1・第2展示室。